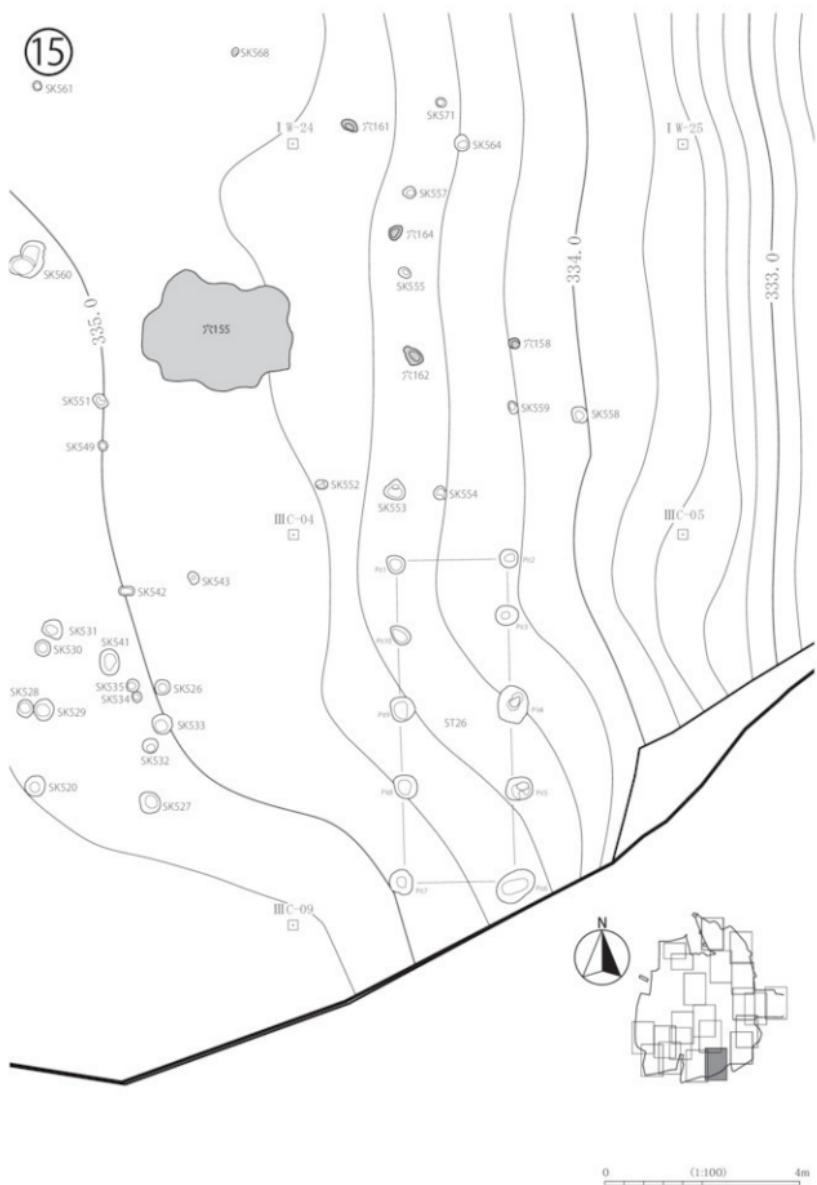
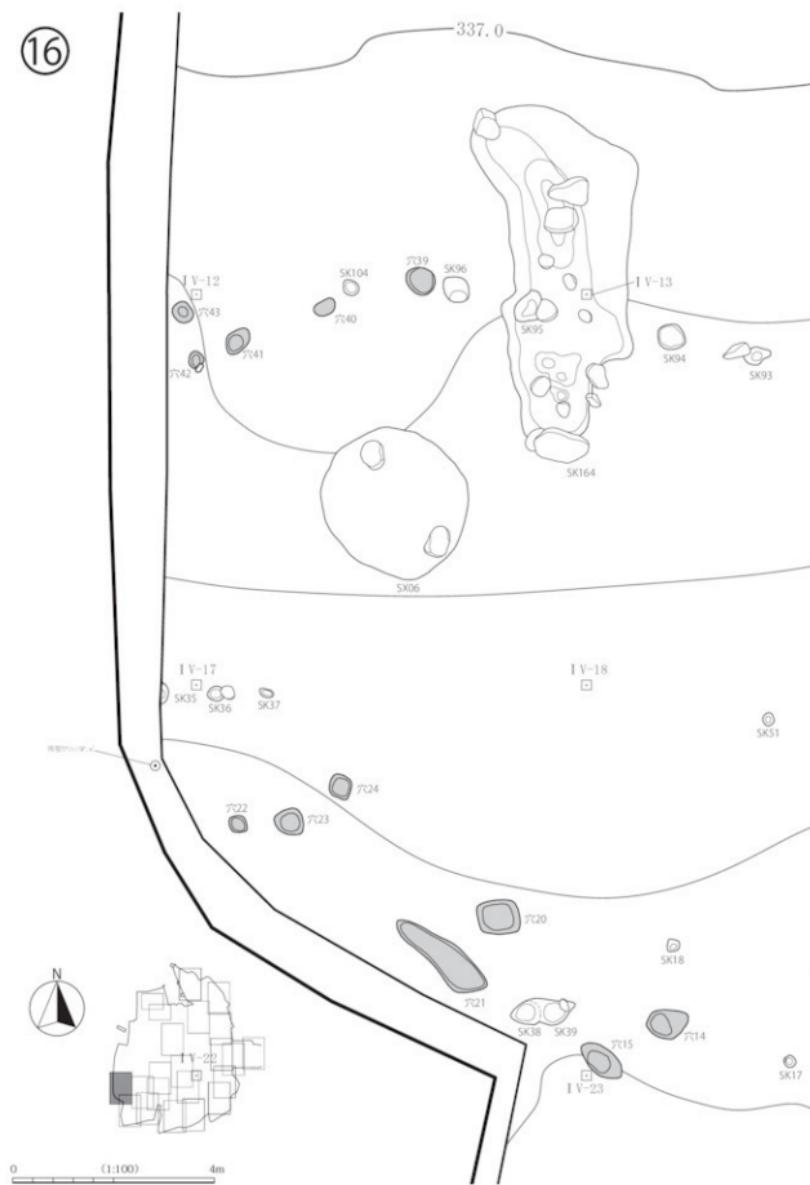


第25図 割付図⑩



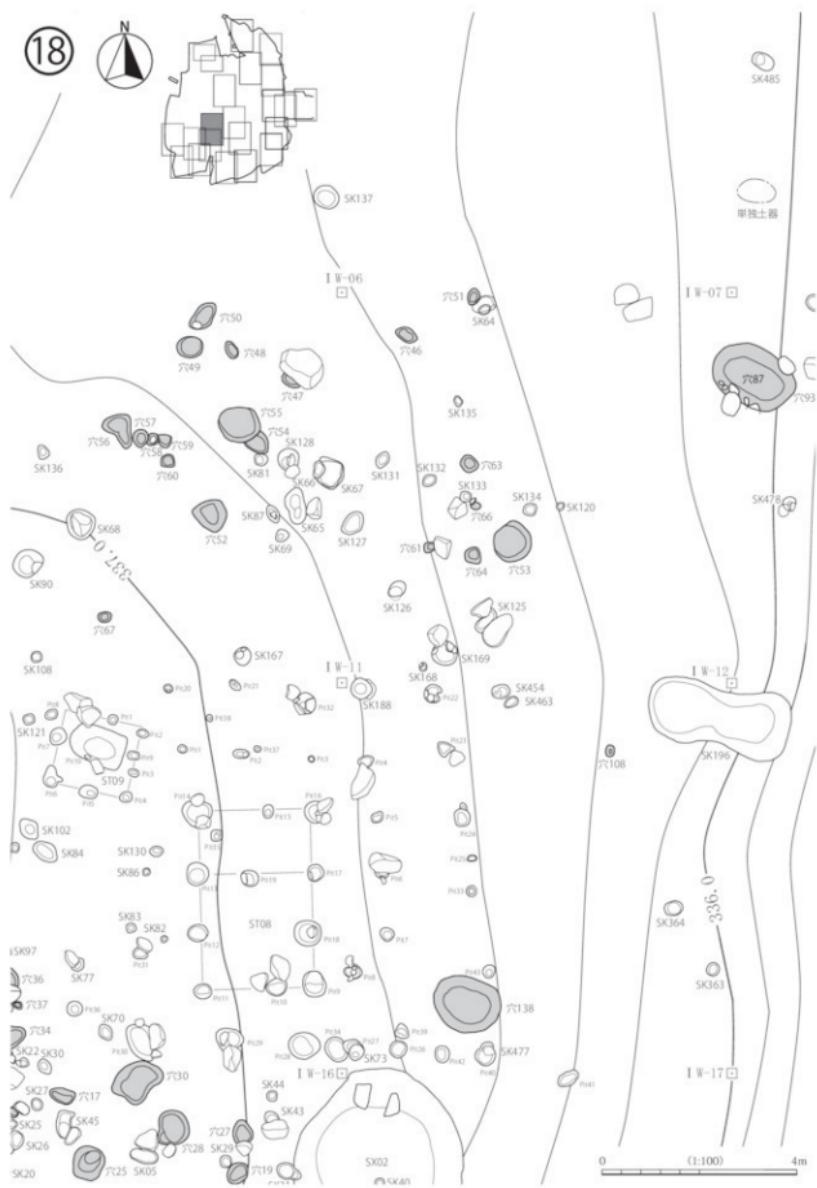
第26図 割付図⑯



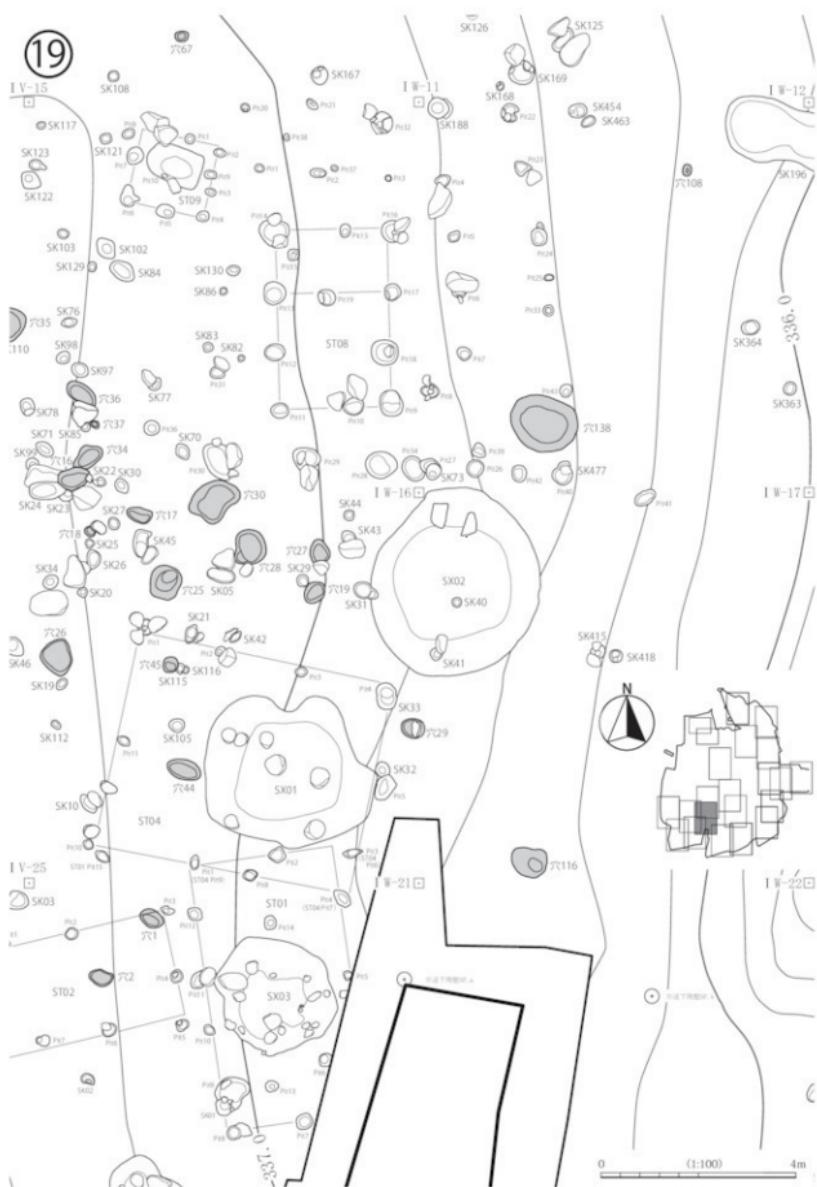
第27図 割付図⑯



第28図 割付図⑰



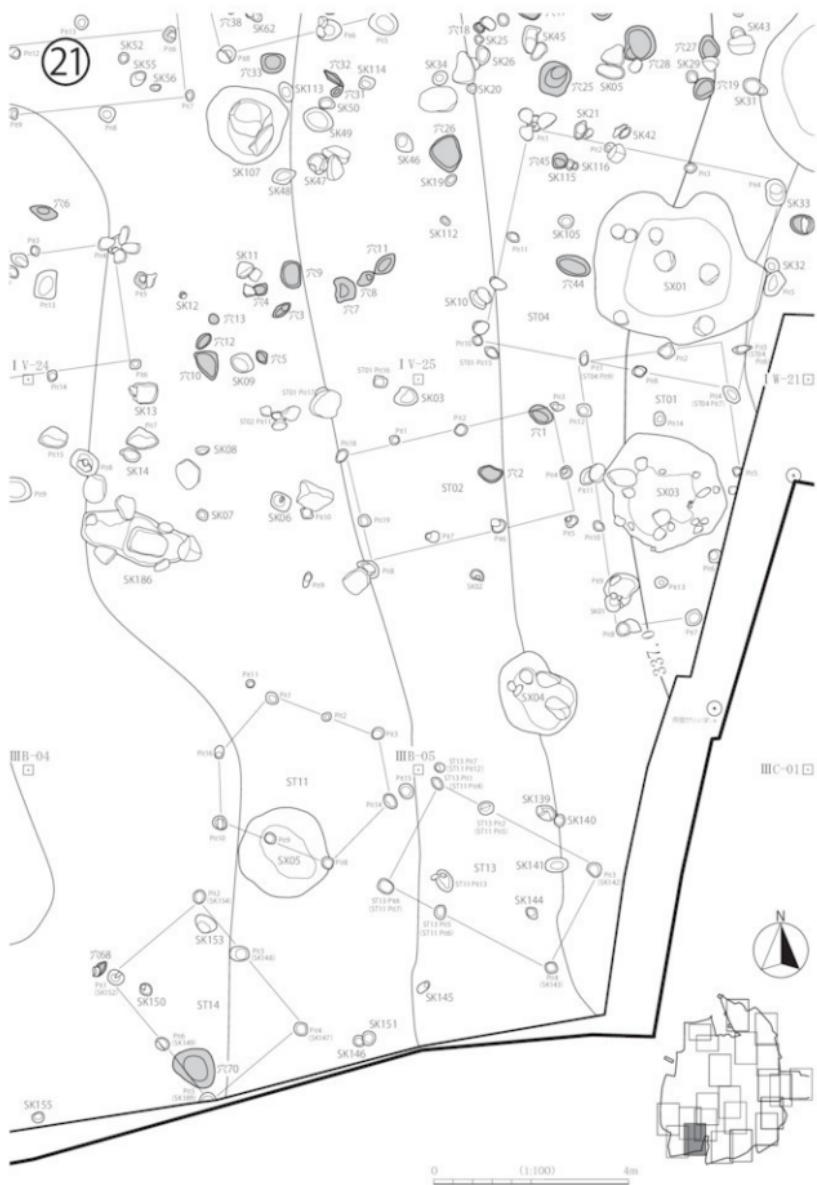
第29図 割付図⑮



第30図 割付図⑯



第31図 割付図②



第32図 割付図②

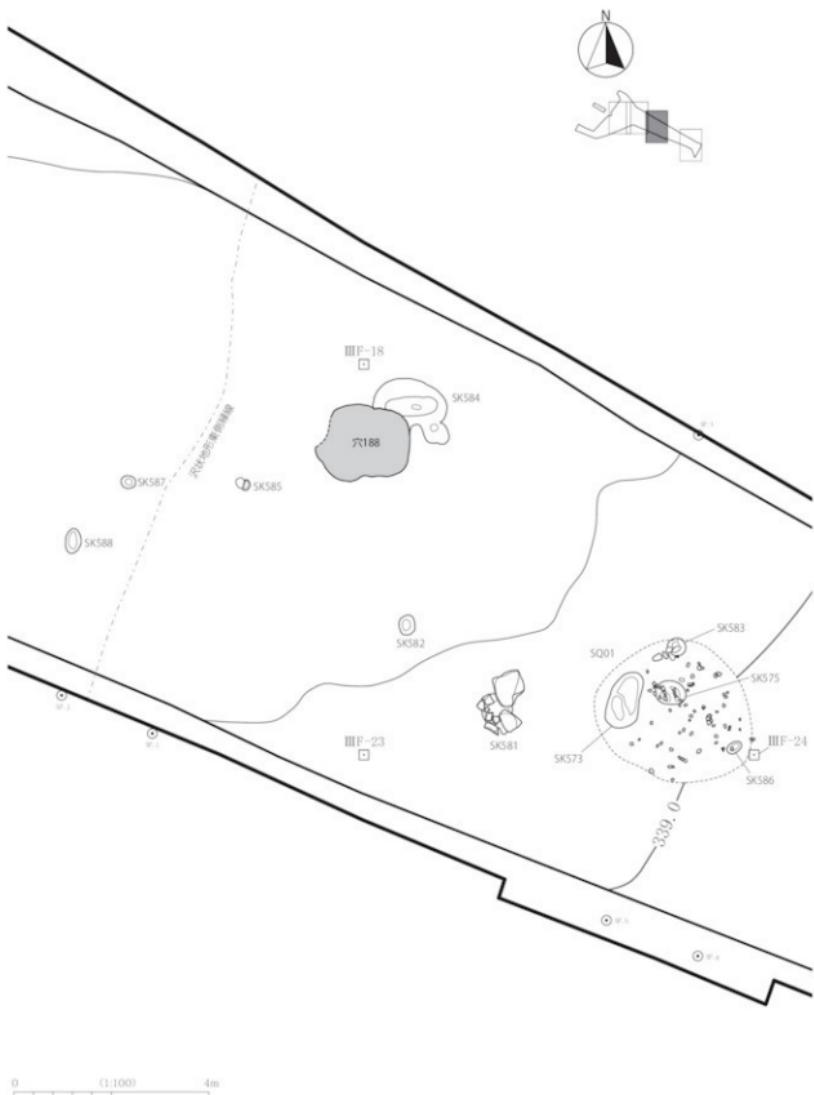


第33図 割付図②



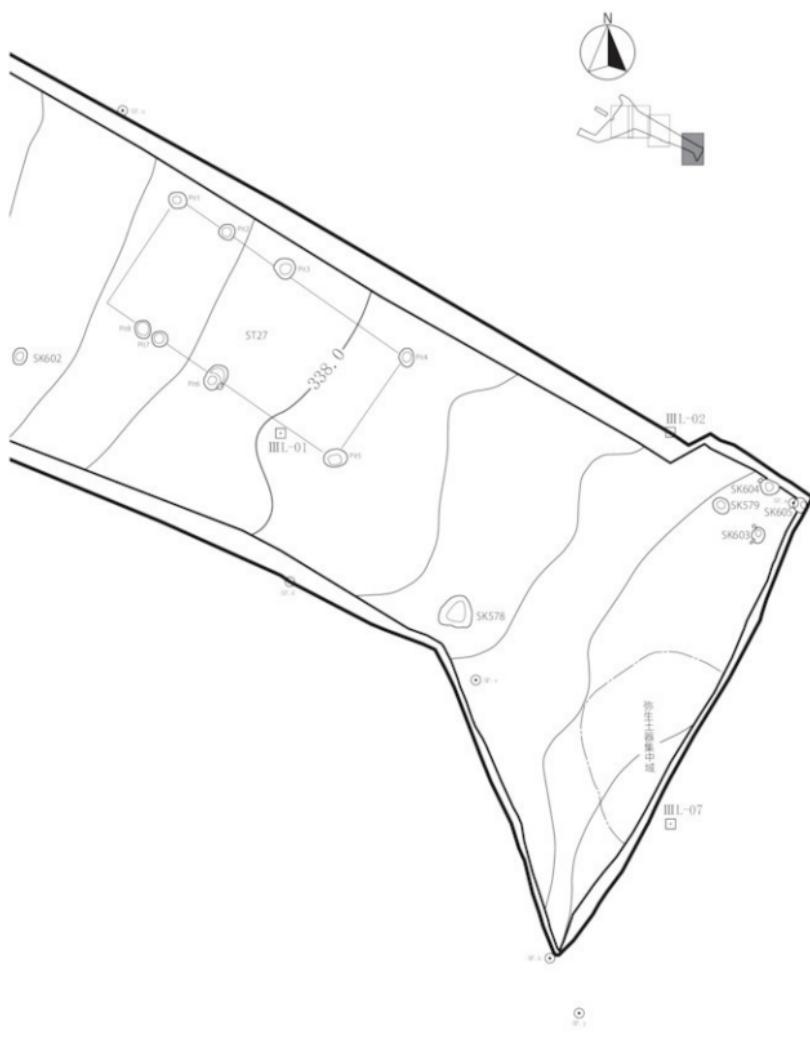
第34図 割付図②

24



第35図 割付図④

(25)



第36図 割付図②

4 基本層序（第37～41図、PL3）

調査区が南北に分断され、北側の調査区も東西に大きく傾斜しているため、調査区間の土層の連続的な対比ができなかった部分もある。遺跡全体では、基本的にはⅠ層～Ⅵ層の基本層序が確認できる（第37図）。Ⅰ a層が盛土層、Ⅰ b層が耕作土層、Ⅱ層が旧耕作土層、Ⅲ a・Ⅲ b層が粘土質シルト層、Ⅳ・Ⅳ a層が粘土シルト層、Ⅳ b層が粘土質シルト～シルト質砂層、Ⅴ層が粘土質シルト～粘土層、Ⅵ層が礫層または砂層である。Ⅲ a・Ⅲ b・一部Ⅳ a層が縄文～平安時代の遺物包含層、Ⅴ層が地山層である。調査区により、各土層の色調や土質が一様ではなく、基本土層の細分に各調査区で差が生じている。そこで、東区中央地点（第37・38図）を基本層序とし、調査区ごとに複数地点の土層柱状図を第38～41図に示した。それぞれの地点ごとに固有の層名が付けられているが、基本層序に対応すると考えられる層である場合には基本層序を（ ）で右側に表示した。なお、基本層序とはほぼ同一層の場合はそのまま表示し、内容が異なる部分があるものは注記に記した。土層断面図は、第37図で示す地点を南側ないしは東側から見た図となっている。

各層の内容は以下のとおりである。

Ⅰ a層：暗オリーブ褐色（Hue25Y3/3）粘土。盛土層。西区ではなく、南区は西側以外にない。近年耕作が行なわれた地区は現耕作土（Ⅰ b層）が上部にみられる。

Ⅰ b層：黒色（Hue10YR2/1）～黒褐色（Hue10YR2/2）砂質シルト。耕作土層。

Ⅱ層：黒色（Hue10YR2/1）～黒褐色（Hue10YR2/2）粘土質シルト。旧耕作土層。上層からの耕作により本層が消滅した箇所が各地区でみられる。

Ⅲ a層：黒色（Hue10YR1/7/1）粘土質シルト。縄文～平安時代の遺物包含層。西区では層が混在しⅢ a～Ⅲ b層とし、東区北側・東側・南側、南区北側・東側では分層できずⅢ層とした。また本層が良好に残存するのは、東区中央と南区北側・南側である。

Ⅲ b層：黒褐色（Hue10YR2/2）粘土質シルト。縄文～古墳時代の遺物包含層。一部、平安時代の遺構検出面。西区で明確でないほかは、調査区全体にみられる。

Ⅳ a層：暗褐色（Hue10YR3/4）粘土～砂質シルト（崩落土）。縄文～古墳時代の遺構検出面。一部、縄文時代の遺物包含層。西区、東区東側ではⅣ層としてまとめた。また南区で3c層とした層は、本層の上部に対応する。

Ⅳ b層：暗褐色（Hue10YR3/3～3/4）粘土質シルト～シルト質砂。Ⅲ～Ⅴ層の漸移層。

Ⅴ層：褐色（Hue10YR4/4～4/6）粘土質シルト～粘土。地山土。東区東側では、下層が砂質となりⅤ a層とⅤ b層に分層した。

Ⅵ層：暗褐色（Hue10YR3/4）～にぶい黄褐色（Hue10YR4/3）礫層または砂層。Ⅴ層下部で互層に堆積。

註

1) 2015（平成27）年7月15日、桐原健に確認。また、瀧脇地区からは昭和15年頃の水田開墾時に大型蛤刃石斧が出土している（第10図－写真）。

2) 桐原健は、出土した弥生土器を栗林Ⅲ類（桐原1963）としている。

引用・参考文献

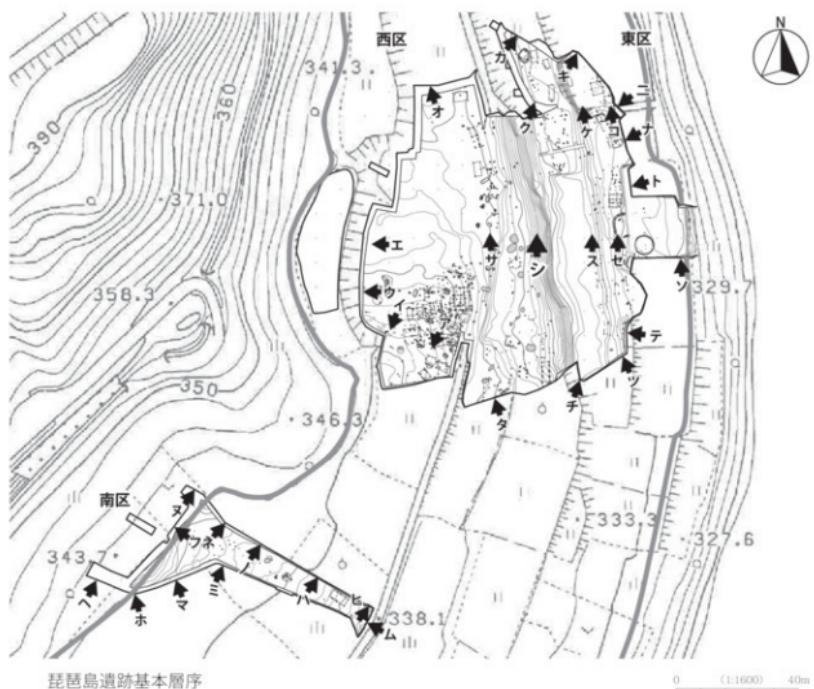
神田五六 1963 「農田村の古代文化」『農田村誌』農田村誌刊行会：243-269

桐原健 1963 「栗林式土器の再検討」『考古学雑誌』49・3：19-34

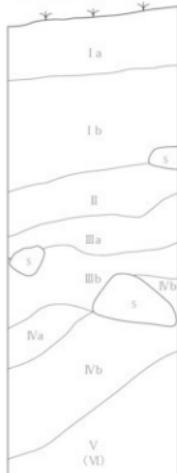
桐原健 1968 「下水内郡農田村笠倉の弥生式遺跡」『高井』6：11-14

中野市教育委員会 2006 「長野県中野市遺跡詳細分布図」

中野市教育委員会 2014 「長野県中野市遺跡詳細分布図（改訂版）」



琵琶島遺跡基本層序



0 (1:20) 50cm

東区中央 シ地点南壁（北より）

【基本層序】

I-a: 黒オリーブ褐色 (Hae25Y3/2) 粘土。透土層。しまり良く粘性強い。人骨大の埋没土。

I-b: 黒色 (Hae10YR2/1) ～黒褐色 (Hae10YR2/2) 砂質シルト。耕作土層。しまりやや長く粘性やや強い。歩行の釋入。

II: 黒色 (Hae10YR2/1) ～黒褐色 (Hae10YR2/2) 粘土質シルト。耕作土層。しまりやや長く粘性強い。遺人物少なく、西側で白色・橙色スコリア混入。東側に歩大の埋没土。

III: 黒色 (Hae10YR17/2) 粘土質シルト。織文～平安時代の遺物包含層。しまりやや悪く粘性弱い。白色・橙色スコリア混入。

IV: 黑褐色 (Hae10YR2/2) 粘土質シルト。織文～古墳時代の遺物包含層。一部、平安時代の遺物包含層。しまりやや長く粘性弱い。白色・橙色スコリア混入。φ 40mm ～歩大の埋没土。

V-a: 黒褐色 (Hae10YR3/4) 粘土・砂質シルト (崩落土)。織文～古墳時代の遺物包含層。一部、織文時代の遺物包含層。しまり良く粘性強い。φ 20 ～ 30mm の円溝混入。

V-b: 黑褐色 (Hae10YR3/3～3/4) 粘土質シルト～シルト質砂。富士山の堆積層。しまりやや普通で粒径弱い。φ 20 ～ 30mm の円溝混入。

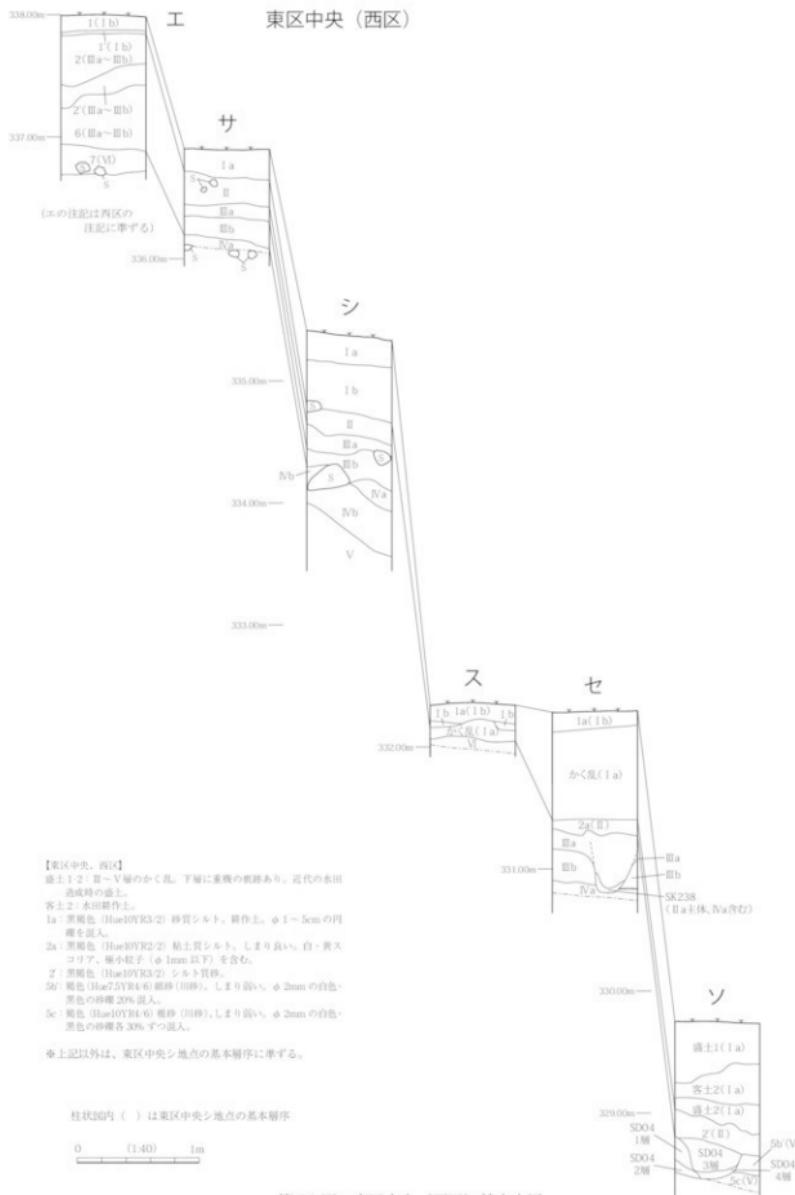
VI: 黑褐色 (Hae10YR4/4～4/6) 砂質シルト～粘土。地山土。しまり良く粘性強い。φ 40mm ～歩大の埋没土。粗砂混入しやすつく。

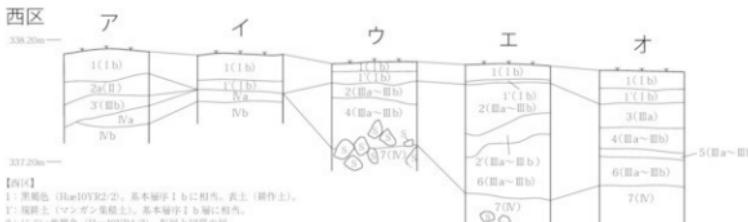
(VI): 黑褐色 (Hae10YR4/4) ～にぶい黒褐色 (Hae10YR4/3) 廃層または砂層。しまり良く粘性弱い。



東区中央 東斜面南壁

第37図 琵琶島遺跡の土層

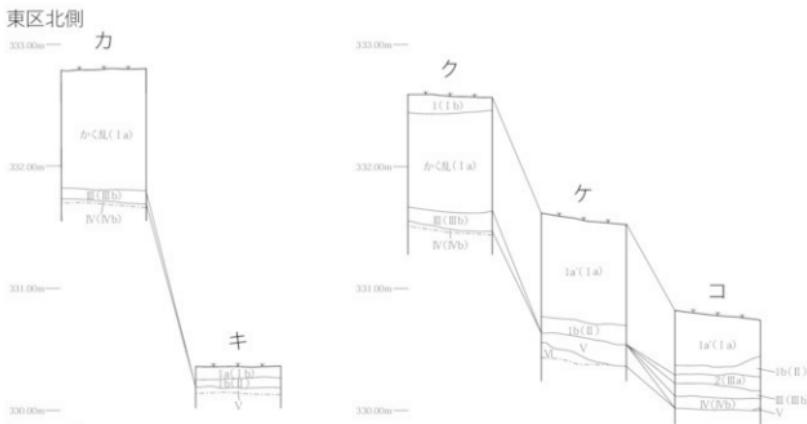




【四】

- 1. 黒葉色 (*HanoyR22/2*)、基本葉序1叶に相当。表土 (耕作土)。
- 2. 褐葉土 (*マングル葉色*)、基本葉序1叶に相当。
- 3. にごり黒葉色 (*HanoyR4/3*)、葉序と同様の。
- 4. にごり黒葉色 (*HanoyR4/3*)、葉序と同様の。
- 5. 黑葉色 (*HanoyR7/2*)、騎士帽上部。子房細長く細い。
- 3. 黑葉 (*HanoyR2/2*)、騎士帽下部。子房よりやく柔軟性強い。
- 6. 黑葉 (*HanoyR2/2*)、シルク。しまりよりよく筋動。黄色、白葉。
- 4. にごり黑葉色 (*HanoyR4/3*)、より柔軟性やく柔軟性強い。子房細長く細い。
- 5. 黑葉 (*HanoyR4/4*)、神戸シット。しまりよりよく筋動。
- 6. 黑葉 (*HanoyR17/1*) シルク。しまりよりやく柔軟性強い。子房細長く細い。
- 7. 黑葉 (*HanoyR4/4*)、神戸シット。葉序は他の少々の異なるもの。

※上記以外は、東区中央シ地点の基本順序に準ずる。



[共通記述・実用]

かくし、隠す。基本形は「a 層に相当」。

1. 黒葉 (Haet10YR2/2) 2 水耕作土。

1a. 黄葉 (Haet10YR2/1) 黏土質サンドト。しまりや悪く粘土に近く粘性高い。現在の水耕作土。基本形は「b 層に相当」。

1b. 喷霧葉 (Haet10YR3/2) 黏土質サンドト。道路を走るための客土。

2. 黒葉 (Haet10YR3/2) 黏土質サンドト。しまりより a 層よりも真く粘性高い。

3. 黑葉 (Haet10YR3/2) 中心部粘土分率 50% 以上。下層中心部に砂利ブロック 10~30cm と耕作土の上に置く。

2a. 黒葉 (Haet10YR2/1) 黏土質サンドト。しまりや真く粘性やや強い。最も黒色となる層である。

2b. 黑葉 (Haet10YR2/2) 黏土質サンドト。しまり真く粘性高いが、水流によって黒色に、ふたて黄色色のラミネート構造が形成される。上部に 1b 層の範囲で鉛粒分率が高くなるのが特徴。

3a. 黑葉 (Haet10YR3/2) 黏土質サンドト。しまり真く粘性高い。東洋式耕作土。

3b. 黑葉 (Haet10YR3/2) 砂質サンドト。しまりから真く粘性弱い。東洋式耕作土に類似する。北側カーボト、東側ケルベト。

4. 黑葉 (Haet10YR4/4) 砂質サンドト。しまりから真く粘性弱い。東洋式耕作土に類似する。北側カーボト。

5. 黑葉 (Haet10YR4/4) 黑葉 (Haet10YR4/4) 砂質サンドト。しまりから真く粘性弱い。

6. a. 基本層とV層に相当。(裏葉マニア二地点)

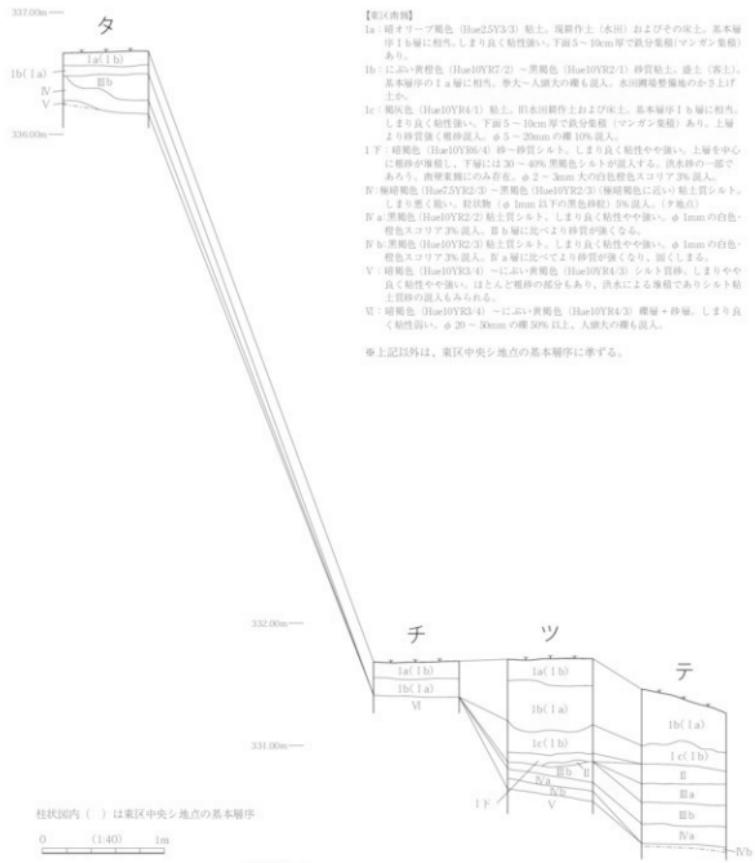
7. 黄葉 (Haet10YR4/4) 砂質サンドト。しまり真く粘性弱い。

8. 黄葉 (Haet10YR4/4) 黑葉 (Haet10YR4/4) 砂質サンドト。まろは、黒葉となる層を除く。しまり真く粘性やや強い。φ 20~30mm の砂利を 50% 以上混入。50mm~一拳大のものも含む。

※上記以外は、東区中央シ地点の基本順序に準ずる。

第39図 西区、東区北側・東側基本土層

東区南側



【南側】

I : 黄褐色 (Hue10YR2-4) シルト粘土質砂。しまり良く粘性弱い。砂が 80% 以上を占める (西側の方が砂質が高い)。葉へいくほど土壌化進む。φ 20~40mm の礫混入。

II : 黄褐色 (Hue10YR2-4) シルト粘土質砂。しまり良く粘性弱い。φ 2~3mm の白色風化殻 10% 混入。1 層より土壌化進む。下層への漸移層である。

III : 黑褐色 (Hue10YR2-3) シルト粘土質砂。しまり良く粘性弱い。φ 2~3mm の白色風化殻 20% 混入。

IV : 黑褐色 (Hue10YR2-3) シルト粘土質砂。しまりやや悪く粘性弱い。φ 2~3mm の白色風化殻 3% 混入。

V a : 黑褐色 (Hue10YR2-1) 粘土質シルト。しまりやや良く粘性弱い。φ 2~3mm の白色風化殻 10% 混入。粗頭大~一葉大的の礫、下層中に 20% 混入 (西側に多い)。生糞・中間遺物含量高。

V b : 黑褐色 (Hue10YR2-2) 砂質シルト。しまりやや良く粘性弱い。φ 2~3mm の白色風化殻 30% 混入。砂質強くなる。

VI : 黑褐色 (Hue10YR3-1) 砂質シルト。φ 2~3mm の白色風化殻 10% 混入。構造大~後削物含量層 (上層一部分のみ)。基本層序が a 層の上部に相当。

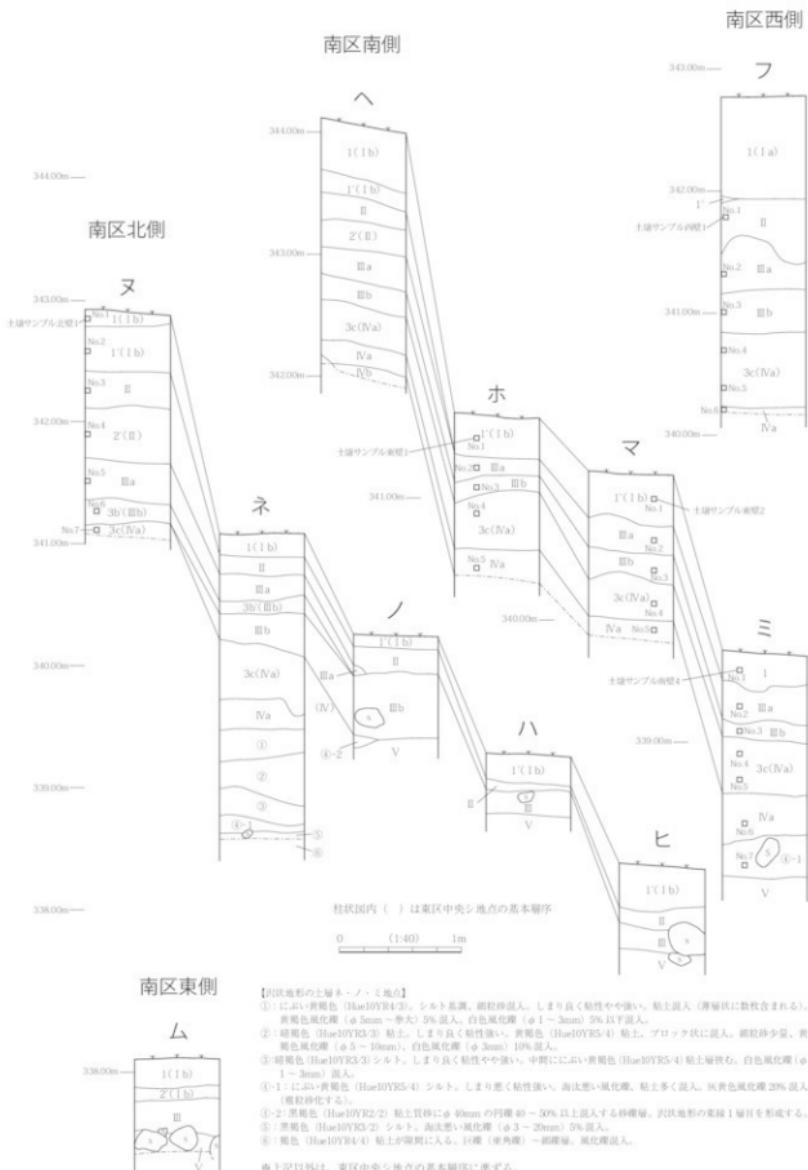
VII a : 黑褐色 (Hue10YR2-3) 粘土質シルト。φ 2~3mm の白色風化殻 3~5% 混入。

VII b : 黃褐色 (Hue10YR3-3) 砂質シルト。φ 1~2mm の白色風化殻 3~5% 混入。

V : 黃褐色 (Hue10YR4-3) 砂質シルトが混入。φ 5~20mm の礫、II 層より多く含む。

*上記以外は、東区中央シ地点の基本層序に準ずる。

第40図 東区南側基本土層



第41図 南区基本土層